

# 南極観測50周年「記念講演会」のご案内

南極観測50周年記念事業委員会では、以下の3つの講演会を企画いたしました。

これらの講演会は、南極観測を通して得られた知見を広くお伝えすべく企画いたしました。多岐にわたる南極観測事業を、三つの切り口から眺めてみようという試みです。南極観測事業のほんの一角ではありますが、その成果等をお伝えできればと思っています。

なお、各講演会とも一般公開(無料)です。各会場とも400名～500名の収容能力がありますが、先着順とし定員になりましたら締め切らせていただきます。

皆様のご来場をお待ちいたしております。

## 『南極観測を支えた船物語』

南極観測に歴史があるように、南極観測を支えた船にもまた歴史とドラマがあります。船は縁の下の力持ちとして影ながら南極観測を支えてきました。人や荷物の運搬をはじめ、船上観測、船相互の連携、時には寄港地での国際親善など多岐にわたります。「宗谷」、「海鷹丸」、「ふじ」、「しらせ」は、活躍した時代もその大きさも異なりますが、普段耳目にしないそれぞれの船のご苦労や秘話を物語ってもらいましょう。

開催日時：平成18年11月8日（水）13時30分～15時20分

会場：船の科学館 1階 オーロラルーム（一般公開）

場所：東京都品川区東八潮3-1 電話：03-5500-1111

交通：新交通「ゆりかもめ」 「船の科学館」下車

司会：桜林美佐 さんと 小野延雄（国立極地研究所名誉教授）

演題：

1. 『南極観測船“宗谷”』 高尾 一三（元「宗谷」第1～3次三席航海士）
2. 『“海鷹丸”と南極観測』 林 敏史（現「海鷹丸」次席一等航海士）
3. 『“ふじ”から“しらせ”へ』 久松 武宏（元「ふじ」船務長・元「しらせ」艦長）

## 『南極観測の50年』

わが国の南極観測は50周年を向かいます。観測の始まりの苦難多き時代、とその後のこれも決して楽ではなかった50年の歴史を、観測や観測を支える設営などのオペレーションからみて振り返ってみます。気象、地磁気、極光、夜光、地震、重力など継続的に行ってきた定常観測の変遷やその成果、そして、これらの50年の観測に基づいて構築

した世界に誇るわが国の南極観測の現状について語ります。

開催日時：平成18年12月16日（土）13時30分開演

会場：一ツ橋講堂（一般公開）

場所：東京都千代田区一ツ橋2-1-2 電話：03-4212-6321

交通：地下鉄 半蔵門線・三田線・新宿線 「神保町」下車

地下鉄 東西線 「竹橋」下車

司会：星合 孝男（元国立極地研究所所長）

演題：

1. 『南極観測事始め』 小口 高（1次隊隊員、12次観測隊長、東大名誉教授）
2. 『南極観測オペレーションの50年』 川口貞男（2次隊隊員、26次観測隊長、  
国立極地研究所名誉教授）
3. 『定常観測の50年』 松原廣司（21次隊隊員、46次観測隊長、  
東京航空気象台長）
4. 『南極観測の今』 藤井理行（18次隊隊員、37次観測隊長、国立極地研究所長）

## 『南極の動物たち』

（見えてきたペンギン・アザラシの水中生態）

ペンギンやアザラシは陸上で繁殖活動をしています。一方で水生にも高度に適応しています。陸上での生活は直接観察ができますが、水中では観察が困難で、その行動や生態はほとんど分かっていませんでした。水生適応を果たしたのは水中の豊富な餌を採るためと考えられていましたが、実際水中のどこで、何時、どうやって餌を採っているかはほとんど不明でした。そこで新たに小型記録計を開発し、動物に装着して行動を測ったところ多くのことが分かってきました。今回はこの餌採り行動などを説明します。

開催日時：平成18年11月19日（日）13時開演

会場：日本科学未来館（一般公開 主として小・中学生対象）

場所：東京都江東区青海2丁目41 電話：03-3570-9151

交通：新交通ゆりかもめ 「テレコムセンター」、

東京臨海高速鉄道りんかい線 「東京レポートセンター」下車

司会：国分 征（元名古屋大学太陽・地球環境研究所所長）

演題：

1. 『アザラシの話』 三谷曜子（日本学術振興会特別研究員（東京工業大学））
2. 『ペンギンの話』 内藤靖彦（21次隊隊員、27次観測隊長、  
国立極地研究所名誉教授）